

さくらん。

精進池 しやうじんけ こゝどはさげど霧深くして水少しも

見えず。

石地藏 いしぢざう 道の左側に高さ一丈餘の自然石にき

ざめる地藏様の座像なり。脊には大岩石を負ひ
たまへり。これぞ弘法大師様の御作、どかどや
の鼻また高し。

御状石 おじやうせき 五圍ばかりもやわらん高六尺ばかり

の石なり。頼朝公が山中歴遊の時書状を見られ
しどころとぞ。

二子茶屋 ふたごぢや 山上に只ひとり、さみしくもを、

しくも立てる掛茶屋なり。晴れたらんには、蘆

湖頭にそびゆる塔ヶ島の離宮を望み、二子山の

麓にある養池を見下し眺望佳なり、とさげど、

けふは霧深ければそれかと思ふものも見えず。

只ゆかしがりて過ぎぬ。

(ついで)

幼稚園

東京 小島 たつ子

雪には、えむ梅が香も霜におひるといふ菊の花
も、二葉の初めより心して培ひてこそ、一しは色
も香もめでたけれ。かよわき二葉の嫩芽のいつく
しみ養はるゝことなくば、いかで雪霜にたふるは
まれを得るに至るべき。あはれ非情の草木すら、
然るを、まして情あり、しかも萬物の靈たる人を
おぼしたつるにふいておや。されども、世には、
時に或は無智にしてさる心得なき親、また或は一
家の事しげさまゝに心ならざる親などありて、こ
のいとも心を用ふべき、忽がせにすべからざる幼
児教育の行はれざる家庭の多きをもて、これを憂

ふるの結果、此業を専門とせる公のまどぬ、いで來るに至りしなり。夙にフレベル氏の立てられし幼稚の園といへるは、ひとへにこれがために創められし庭とこそ、傳ふめれ、

そも幼稚園とはかゝる必要によりて未だ學齡に達せざる幼兒の爲に設立せられし者なれば、其目的とするところは能く各兒の天性に従ひよきをすゝめ、あしきをさげ、専らすなほに生ひたてしむるにあり、されば唱歌、遊嬉、手細工、など幼なごゝろを導くにふさはしくして、しかも益あるくさくの手だてをつくせり。

又明らけき今の大御代は我國にも其必要成功を悟れる者多く、近年頓に其設立増加し、従つて此處につどへる幼兒の數もあげて數ふべからざるに至れり。然りとはいへども、なほ此精神を誤解し

或は、幼兒を學ばしむる處なりとおもひとれるにや、幼兒の自由働作に害なりとさへいふ者もあるは幼稚園のためには、いみじき寃にして實に幼稚園は幼兒の爲には樂しき園生、安全なる園生自由なる園生にこそはわれ。あはれ、かゝるめでたき園生につどひ得る幼兒の幸こそまたたぐひなけれ。

公德唱歌 (其一)

學校の詩人

物理の試験面白や 生きたる蝶々瓶に入れ

空気をぬけば動かれず 空気をさせば飛び廻る

前なる人よ立つ勿れ 後の人も見ゆるやう

試験は誰も見たきなり

運動會の面白さ 白と赤との綱引や

勇氣をだせば取返へし 勇氣撓めば引ずらる